



子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

J P子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2023年2月号)

〒146-0082 東京都大田区東矢口2-6-14 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
https://www.kodomono-mori.net mailto:info@kodomono-mori.net

「J P子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



今年も、「全国集会 & 研修会2023」が開催されました。

今年は、幼児期の環境教育を考える「SDGs」をテーマとしました。

多くの方のご協力により、本当に有意義で学びの多い研修会となりました。

文字数が制約されている「子森通信」では、項目的なものしかお伝えできないのがもどかしいのですが、
ホームページでは、もう少し踏み込んだものを掲載しましたので、よろしければご覧ください。

写真は、春を待つ東北のどんぐりです。

(目次)

1. J P子どもの森づくり運動「全国集会 & 研修会2023」(埼玉大会) 開催レポート
2. リレーエッセイ (2023年2月号)
3. 事務局 (子森ネット) からのお知らせ

■「J P子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「J P子どもの森づくり運動」運営体制

・運営：NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)

・特別協賛：日本郵政グループ

・主な後援/協力/連携団体

(公社)全国私立保育連盟

NPO法人 富良野自然塾

(公社)大谷保育協会

(公社)こども環境学会

保育環境研究所ギビングツリー

国際校庭園庭連合日本支部

(公社)国土緑化推進機構

(一社)日本森林インストラクター協会

郵便局の魅力を発信するメディア「JP CAST」は
下記QRコードからご覧いただけます。

郵便局の魅力を発信するメディア

JP cast



1. JP子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2023」（埼玉大会）開催レポート

毎年恒例のJP子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2023」（以下「全国集会」）が埼玉県において開催されました。全国集会は、年に一度、全国の保育・幼児教育関係者が集い、より良き保育を目指して協議と情報交換を行う大切な場です。今回のテーマは「子どもの森づくりとSDGs」としました。わたしたちは、日頃少し遠いものとして感じているSDGsの活動を、子どものより良き未来を願うとき、はじめて「我がこと」として考えられます。そして、JP子どもの森づくり運動は、SDGsを「我がこと」として取り組む保護者と保育者によって推進されている活動です。長引くコロナ禍の中で、子どもたちの自然体験活動が規制されつつある現状を踏まえ、あらためてJP子どもの森づくり運動の環境教育としての意義やその方法についてみんなで考える機会としたいと思い、開催させていただきました。今回の全国集会がご参加いただいた保育・幼児教育関係者にとって、今後のより良き保育・幼児教育活動に少しでも役立つものとなったのであれば幸いです。開催内容の詳細は、ホームページをご覧ください。

【開催概要】

- 1) 開催日：2023年2月14日(火)、15日(水)
- 2) 開催地：さいたま市子ども家庭総合センター「あいぱれっと」子ども研究センター
- 3) 主催：JP子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2023」実行委員会
 ＊構成団体：子森ネット（筆頭）/ 国際校庭園庭連合日本支部 / （一社）さいたま市私立保育園協会
 児玉の森こども園 / 浦和ひなどり保育園
- 4) 特別協賛：日本郵政グループ -日本郵政グループは、JP子どもの森づくり運動を応援しています。-

【開催内容（1日目）】



●「園庭緑化運動」活動発表

「園庭緑化運動」モデル園3園（「三茶こだま保育園」「エンゼル幼稚園」「こども園ほしのこ」）担当者に会場にお越しいただき、主に、2022年度の活動について発表いただきました。発表終了後、プロジェクトコーディネーターの田園調布学園大学大学院の仙田先生による、3年間にわたる取り組みのまとめが行われました。

●「保育防災アクションマイスター認定講座」活動発表

「保育防災アクションマイスター認定講座」2期生5園（「認定こども園青森ひかり」「あままえこども園」「児玉の森こども園」「駒沢こだま保育園」「大野幼稚園」）による、2022年度を受講成果の発表が行われました。発表終了後、講座講師の（株）タフ・ジャパン 代表 鎌田修広氏による総評が行われました。



●「保育防災アクションマイスター認定講座」2期生認証式

「保育防災アクションマイスター認定講座」受講園の活動発表の内容は、マイスター資格認定の最終審査の対象となります。発表は、いずれも素晴らしい発表で、受講担当者全員がマイスター2期生として、受講園全園が認定園として認証されました。発表終了後、子森ネット塚原代表よりマイスター認証状とバッジが、鎌田講師より認定状が手渡されました。



【開催内容（2日目）】

●基調講演（オンライン）

全国集会2023では、かねてより切望していた、玉川大学教育学部教授 大豆生田啓友先生に基調講演をお願いすることができました。テーマは、全国集会のテーマに沿った「子どもの森づくりと保育－持続可能な社会づくりに向けて－」ということをお願いしました。期待どおりの素晴らしい、本当に学びの多い内容でした。ご講演の一部をホームページに掲載しておりますのでご参照下さい。



●パネルディスカッション

基調講演を受けて、テーマを深掘りするパネルディスカッションを実施しました。パネラーには以下の方々にご参加いただきました。北海道教育大学教育学部 岩見沢校アウトドア・ライフコース教授 能條 歩先生（オンライン）田園調布学園大学大学院 人間学研究科准教授 仙田 考先生、浦和ひなどり保育園園長 丸山和彦先生、三茶こだま保育園園長 石田 亜由美先生、コーディネーターは子森ネット清水が務めました。

●「園庭緑化運動」2023年度の活動

今回の全国集会には、J P 子どもの森づくり運動の参加園以外の方にもご参加いただきました。ここでは、「園庭緑化運動」プロジェクトコーディネーターである田園調布学園大学大学院 人間学研究科子ども人間学専攻 准教授 / 国際校庭園庭連合日本支部代表 仙田 考先生から、新年度のモデル園募集を目的に、「園庭緑化運動」のそもそと、2023年度の活動計画についてお話しいただきました。



●「保育防災認定講座」2023年度の活動

「保育防災アクションマイスター認定講座」講師である消防庁防災アドバイザー（株）タフジャパン 代表取締役 鎌田修広氏から2023年度の3期受講生（園）の募集を目的に、認定講座の概要と新年度の活動についてお話しいただきました。

●「こどもの森づくりフォーラム」案内

「こどもの森づくりフォーラム」は、林野庁、国土緑化推進機構、子森ネットが連携して、保育所・幼稚園等における園庭や地域の森林等の確保・整備等の機運醸成を図るとともに、その支援体制の構築することを目指す国民運動です。子森ネットでは、子どもの森づくり運動の展開につながる活動であると思い、全国事務局を務めます。当日は、「こどもの森づくりフォーラム」木俣知大プロジェクトリーダーから、活動の概要について説明させていただきました。「こどもの森づくりフォーラム」の活動経過については、今後、子森通信にてご報告させていただきます。

2. リレーエッセイ (2023年2月号)

幼児(少)期の環境教育をテーマに、北海道教育大学 教育学部岩見沢校 アウトドア・ライフコース教授 能條 歩 (あゆむ) 先生によるリレーエッセイです。今月号は、「自然への畏敬の念」についてです。自然体験における、もっとも本質的なテーマです。

自然への畏敬の念

北海道教育大学 教育学部岩見沢校 アウトドア・ライフコース 教授 能條 歩



みなさんも、「自然への畏敬の念」ということばを聞いたことがあると思います。幼稚園教育要領に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」にも、(7)自然との関わり・生命尊重 自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。(後略)という記述があり、「自然に触れて感動する体験により、自然への愛情や畏敬の念を持つようになる」そこから考えが読み取れます。

「畏敬の念(おそれうやまう)」という心情は、以前ご紹介した“生態系サービス”とはちょっと違うもののように思われます。“生態系サービス”には、自然が私たちにもたらす「恩恵がある／なくなる、ばちがあたる」といった外からの条件でつくられるやや功利的な側面も感じられましたが、「自然への畏敬の念」には「人智の及ばないもの(仕組みや理屈が説明できないもの)」に対して心の内面から湧き上がってくるような感情も含んでいるように思います。

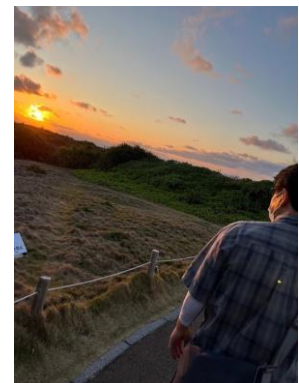
「仕組みや理屈が説明できないもの」とは、言い換えれば「管理したりコントロールしたりできないもの」ということになります。そうすると、「自然への畏敬の念」を持たないことは、「自然はすべて管理したりコントロールしたりできる」という考えにつながるのではないかと心配になります。つまり、自然に触れて感動する体験が減って「自然への畏敬の念」が得られないことにより、自然災害のような人智の及ばない(コントロールできない)ものに対する慢心を生むことではないかと懸念されるのです。



災害につながるような自然現象は、祈ってもなくせませんし人工的に小さくすることもできませんが、「自然への畏敬の念」を持つことで慢心を防ぐことができれば、心構えができて被害を減ずることはできるでしょう。こう考えると、「自然へ畏敬の念」を持つようになることも、自然体験が私たちにもたらすギフトだといえるのではないのでしょうか。

【筆者近況】

今月初めに、学生実習で沖縄に行きました。亜熱帯の自然環境の美しさに触れると同時に、最大の環境破壊に他ならない戦争の悲惨さと愚かさについて考えさせられました。その2日後には、これまた実習で大雪山の麓の森を散策しました。白銀の森のなかでは、美しさと同時に極寒の地では十分な準備や注意を払わなければ生きていけないヒトのか弱さと圧倒的な自然の存在感を感じさせられました。



3. 事務局(子森ネット)からのお知らせ

国土緑化推進機構では、2023年度から新たに、保育所・幼稚園等において、**保護者や子どもが参加した園庭緑化・裏山等整備に特化した助成メニュー**を創設して、現在公募しています。申請締切日(3月15日)が迫っている情報で恐縮ですが、提供させていただきます。ご興味のある方は、右のQRコードをご参照下さい。

